

(別紙様式)

都道府県番号	10
都道府県名	群馬県

(   )  
該当する観点にチェックをすること

・学校名及び規模

前橋市立岩神小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	2	2	2	2	1	14	20
児童数	90	78	66	72	69	65	1	441	

・実践研究の概要(主題(テーマ)及び設定の主旨)

<p>・主題(テーマ) 「自ら学び自ら考え、よりよく問題を解決する児童の育成」 個に応じたきめ細かな学習指導を通して</p> <p>・テーマ設定の趣旨 確かな学力の向上を図るためには、学習指導において、少人数指導やTT指導の導入など、個に応じたきめ細かな学習指導のあり方に着目して、研究実践を進めることが有効であると考え、本主題を設定した。 一年次の本年度は、算数科の指導において3～6年生で少人数指導を、1・2年生でTT指導を取り入れた授業を実施し、きめ細かな指導のあり方を探っていくことにした。</p>
---

・実践研究の内容について

( )研究体制の工夫

フロンティアスクール一年次の取組となる今年度は、児童の実態と指導者の配置を考慮し、3年生以上の算数指導で少人数指導を実施していくことにした。

3・4年生は1学級を等質に2つに分けて担任と少人数担当で指導することにし、5・6年生では、学年児童を習熟の程度に応じて3つに分けて2人の担任と少人数担当で指導していくことにした。また、少人数指導の研究を深めるために4月当初より、時間割を調整し全単元で実施できるよう指導体制を組んだ。さらに、個に応じるための習熟の程度に応じた教材を開発するため、各学年ブロックに教材開発担当をおき研究を推進することにした。

( )実践研究の内容

今年度の取組の中から、発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発と個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善の2視点に関わって、児童の実態を踏まえた理解や習熟の程度に応じた指導事例を挙げる。

5・6年習熟の程度に応じたコース学習指導の実践

(1) 習熟の程度に応じたコース学習の実践方針

高学年ともなると、自分の算数の力のある程度自己評価する力が育ってきている。自分に合った学習スタイルやペースも分かっている児童が多い。そこで、課題解決の

仕方やドリル量の異なる3つのコースを設定し、自分にふさわしいコースを選ばせて、少人数指導を実施することにした。習熟の程度に応じた指導することによって個に応じたきめ細かな支援が可能になると考えたからである。

コースは、時間割や教員の数を考慮し学年を3つに分けるコースを設定し、課題解決の方法や課題解決にかかる時間、学習プリントの質や量が異なることが児童に理解できるように「じっくり」「しっかり」「たっぷり」と名付けた。児童自身のコース選択が適切にできるかどうかの不安はあったが、習熟の程度に応じた学習は初めての試みであること、児童の意欲を最優先した指導体制にしたいということ、保護者への理解を得ること等の理由により、児童の自己選択によるコース分けからスタートすることにした。

コース別学習のスタイルと基本的な考え方

- ・ 学年を3つのコースに分けて、担任2人と少人数指導担当1人の計3人で指導する。
- ・ コースは、1単元ごとに担任が簡単な学習内容の説明やプレテストを行った後、単元に対する興味・関心、課題をこなすスピード、学習スタイルの好み等によって児童自身が選択し決定することを原則とする。より適切なコースが選択できるようにプレテストの結果や児童の実態に応じて担任から助言を与えることもある。
- ・ 単元途中でも、児童の希望や指導者の判断でコースを変更することも可能とする。
- ・ 少人数指導の観点からどのコースも1学級の人数より多くはならないように配慮する。
- ・ 各コースの担当者は学期ごとに交代する。
- ・ 情報交換を密に行い、各コースの指導法の工夫や児童の実態把握に努める。

(2) 具体的事例 第5学年の実践から 単元「面積の求め方を考えよう」第1時

### じっくりコース

具体物にふれながら課題解決していく。ポイントを絞り、一つ一つのことを確実に押さえるようにする。個に応じた指導に重点を置き、児童の学習内容の到達度を見ながら一斉指導や個別指導を適宜行う。一人一人がめあてや興味・関心を持って自分のペースでじっくりと課題に取り組みながら、学習が進められるようにする。

- ・ 児童の実態に応じた問題を精選して課題に取り組みさせていく。

ねらい 平行四辺形の面積の求め方を理解する。

課題解決の方法

- ・ 既習の図形を想起させながら、具体物を使って操作活動をさせ、平行四辺形を長方形に等積変形させて、面積を導き出す

教材の工夫

- ・ 厚紙の平行四辺形を用意し、実際に切ったり貼ったりしながら求め方を導き出す
- ・ ホワイトボード（あらかじめ指導者が平行四辺形をかき込んでおく）
- ・ 掲示用既習図形の図を使って図形の特徴や性質を復習する（導入時、時間をかけて扱う）
- ・ ヒントカード（マス目のある平行四辺形）
- ・ ワークシート（具体的操作を促すことができるもの）

### しっかりコース

課題に対して自力解決の後、一斉指導をしていく。一斉指導の中で支援・助言をもとに友達の考えのよさと自分の考えの異同を認識し、自分の考えを深め高めながら学習に取り組めるようにしていく。

- ・各自の考えを広げたり深めたりするために、話し合いの場を確保する。その際、ホワイトボード等を使って自分の考えをわかりやすく伝えられるようにする。
- ・導入の段階では求積方法が既習の図形を振り返り、平行四辺形や三角形の面積を既習の図形に帰着させて求めるという見通しを立てられるようにする。

ねらい 平行四辺形の面積の求め方を理解する

課題解決の方法

- ・補助線を書き、図形の平行移動・回転移動を念頭操作したり補助教材として具体物を取り入れたりして、面積を導き出す

教材の工夫

- ・掲示用平行四辺形の図（実物大 1 m<sup>2</sup>の正方形と平方四辺形で、方眼マスあり）
- ・掲示用既習図形の図（方眼マスあり）
- ・平行四辺形（4 頂点が可動式）
- ・ホワイトボード（自力解決できた児童がまとめの段階で使用）
- ・厚紙の平行四辺形（具体的操作をする児童用）
- ・ワークシート

### たっぷりコース

自力解決を中心に学習を進める。解決方法をいろいろな方法や手順で考えさせ、それらの異同を比較検討させながらまとめていく。多様な考えを相互評価しながらまとめられるようにしていく。

- ・各自の考えを広げたり深めたりするために、話し合いの場を確保する。その際、ホワイトボード等を使って自分の考えをわかりやすく伝えられるようにする。
- ・発展的な内容として、台形や多角形、曲線で囲まれた図形の面積の求め方についても各自の習熟の度合いに応じて扱っていく。

ねらい 平行四辺形の面積の求め方を理解する

高さが図形の外にあるタイプの平行四辺形の面積の求め方についても考える。

課題解決の方法

- ・課題を自力で解決し、それぞれの考えをホワイトボードを使って発表して意見交換する活動を通して平行四辺形の面積の求め方を理解する。

教材

- ・掲示用既習図形の図（方眼マスなし）
- ・ホワイトボード（児童一人 2 枚ずつ用意）
- ・ヒントカード 4 種類
- ・ワークシート 2 種類

なお、児童の実態に応じて柔軟に指導形態を変える試みもした。単元の途中でも学年 TT が有効と考えられる場面は、随時導入していくことにした。この単元では、学習内容の習熟と理解を確認するまとめの場面で、コース別ではなく学年 TT を取り入れた。

( ) 成果と課題 ( 成果 課題 )

習熟の程度に応じた指導を取り入れたことによって、個に応じた指導がきめ細かに実施できた。

- ・同じくらいの学力（意欲・思考力・習熟度）の児童が集まっているので、課題解決学習を効率的に進めることができた。
- ・じっくり時間をかけることが必要な場面やコースでは課題を精選して時間を確保した

り、理解が十分な場面やコースでは、発展問題に挑戦させたり習熟度を高めるために量的に課題を増やしたりすることなど、実態に合わせた柔軟な指導内容・指導方法を工夫することができた。

少人数指導の結果、学習内容が分かるようになり、算数が好きになったと答える児童が多くなった。各単元のテストでも、前年度より平均点は上昇している。

少人数の授業では、自分のペースで学習が進められるので、安心して落ち着いて課題に取り組む雰囲気が作れる。また、発表の回数が増えるので以前より積極的に学習に取り組むようになった。

コース選択を自分自身で決定することによって、自分の学力を見直したり自分なりの学習目標を設定したりすることができるようになった。

学年を3コースに分け単位ごとにコース編成を行ったことにより、学級の枠を越えて多くの友達と交流することができ、刺激を受けたりお互いの良さを理解し合ったりすることができた。また、算数の授業に対する緊張感が生まれ集中力も高まった。

コースによって優越感・劣等感を持たせることのないように配慮すること。

単純に課題をこなすスピードを競わせるのではなく、それぞれのコースの特色を出しながら課題解決をさせたり集団での練り上げを大切にしたりしながら、基礎基本を確実に身に付けさせ、よりよく問題を解決する力を高める指導法を工夫していくこと。

( )成果の普及方策

・Webページ作成の工夫

従来のWebページを全面的に更新、フロンティアスクールとしての取組のページを付け加えて、平成15年1月20日より公開。定期的に更新を心がけ、学校としての取組の様子・各学年の授業の様子等を掲載し、成果を伝えられるよう工夫していく予定。

・平成15年度授業研究会(予定)

年3回(6月・10月・11月に実施予定)

開催日程、テーマ等は、決定次第HP上及び開催要項にて関係機関に連絡し、参加を呼びかける予定